

第4学年 体育科学習指導案

日 時 平成22年10月22日(金) 3校時

場 所 北厨川小学校体育館

児 童 4年3組(男子15名 女子13名 計28名)

指導者 岩越 裕史

1 単元名 レッツ チャレンジ! 跳び箱運動 (B 器械運動 ウ 跳び箱運動)

2 目 標

<関心・意欲・態度>

- ・跳び箱運動に進んで取り組もうとする。
- ・きまりを守り、友達と仲良く励まし合いながら運動しようとする。
- ・器械・器具の準備・片付けを友達と一緒にしようとする。
- ・場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全に気を配ったり、試技の開始前の安全を確かめたりしようとする。

<思考・判断>

- ・基本的な技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選んでいる。
- ・基本的な技の動き方や技のポイントを知り、自分の力に合った課題を選んでいる。

<技 能>

- ・基本的な技の「開脚跳び」と「台上前転」ができる。
- ・基本的な技の発展技に取り組むことができる。

3 単元について

(1) 教材について

「器械運動」は、マット・鉄棒・跳び箱等の器械・器具を使って「技」へ挑戦し、その達成の楽しさや喜びを味わうことができる運動領域である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びがある。

「跳び箱運動」は、いろいろな高さや向きの跳び箱を、安定した動作で跳び越したり、跳び越し方を工夫して挑戦したりすることが楽しい運動である。つまり、跳び箱の上の空間で、巧みさやダイナミックさや美しさを表現するために、技術を分析し、技を追求していくことが「跳び箱運動」のおもしろさの中心と考える。また、「跳び箱運動」には、両足で踏み切って、両手をついて体を支え、また両足で着地するという動作があり、日常生活では経験できない動きが含まれている。

中学年では、基本的な支持跳び越し(切り返し系・回転系)に取り組み、それぞれの系について自己の能力に適した技ができる教材として扱いたい。

(2) 児童の実態について

全体的に、体育の時間や休み時間など、意欲を持って運動する児童が多い。3年生の跳び箱運動では、「開脚跳び・台上前転・かかえ込み跳び」を学習してきた。本単元で基本的な技として扱う「開脚跳び」「台上前転」について実態調査を行ったところ、開脚跳び(縦4段)ができない児童が6人、台上前転4段ができない児童が9人、台上前転3段ができない児童が5人という結果であった。うまく体重移動ができなかったり、頭の着く位置が安定していなかったりという様子であった。しかし、できなくても怖がることなく挑戦し、練習すればできるようになると前向きに捉えている児童が多い。

事前アンケートでは、「跳び箱運動」が好きと答えた児童が24名、嫌いと答えた児童が4名いる。嫌いと答えた児童の中には、跨ぎ越すことを怖がる児童がいる。また体育の時間、「友達が励ましたり、応援したりしてくれるか」の問いに「はい」と答えた児童が13名と少ない。

(3) 指導について

本単元では、3・4年生の基本的な技である「開脚跳び」「台上前転」をみんなができるように励まし合いながら運動していくことを中心に学習を進めていく。

学習の形態としては、異質グループを基本とする。学び合いの仕方を単元計画の中に位置付けることで、児童がお互いに認め合い、高め合う態度を育てていくようにしたい。

「跳び箱運動」に必要な基本的な動きづくりとしてセットメニューを取り入れ、体重移動や腕支持・投げ

出し感覚などを養うようにしていきたい。

基本的な技の習得を目指すために、局面におけるポイントを学習し、毎時間意識しながら運動できるよう手立てを組んでいく。自分の課題については、友達からの視点の中で気付けるようにしていきたい。

【研究とのかかわり】

研究内容

① 教材及び単元計画の工夫・改善

- ・2つの学年の単元計画の中に、3年生では習得を意識し、4年生では活用を意識しながら、学習を組織していくことで、3つの観点それぞれをじっくり学習しながら進めていけるようにしていく。
- ・単元を通して異質のグループで活動し、技のポイントについて確認したり、励まし合ったりすることで、みんなで上手になる意識を持ちながら運動できるようにさせていく。
- ・2つの学年のまとめりとして、3学年で習得した低い段での開脚跳びと台上前転について、4学年では児童自らポイントを見つけ出し、より巧みに、よりダイナミックにするための方法を選んで活用できるようにしたい。

② 運動ポイントのつかませ方と活かし方

- ・グループでの話し合いから、一人一人が見つけたポイントを掲示に表す工夫をする。
- ・児童から出されたポイントをもとに、「カード」に記入させ、グループ学習の際に活用することで、個人の課題を明確にし、お互いが学び合えるようにする。

③ 運動の特性に即した活動の取り入れ方

- ・練習タイム・挑戦タイムという流れをパターン化し、基本的な技を練習する時間と、発展技に挑戦する時間を設け、グループでお互いに認め合い励ますことにより、技のできばえを意識させる。
- ・準備運動にセットメニューを毎時間取り入れることで、跳び箱運動に必要な基本的な動きを身につけさせていく。

4 単元計画（2つの学年のまとめりとして）

(1) 習得を学習の中心に据えた3年生の単元計画（8時間扱い）

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
10	オリエンテーション ・学習の進め方 ・学習の約束事	用具の準備・あいさつ 準備運動の跳び箱セットメニュー（①スーパーマン跳び②連結跳び箱渡り③ステージへの跳び上がり下り④高さのあるシンクロ前転）						
35	・場作り ・準備運動の仕方 ・振り返りの仕方	めあての確認 （1）基本的な切り返し系の技で、跳び越すためのポイントを見つける活動をする。 （2）基本的な回転系の技で、回転するためのポイントを見つける活動をする。						発展技
45		後片付け・学習の振り返り・挨拶						

(2) 活用を学習の中心に据えた4年生の単元計画（8時間扱い）

時間	1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8
10	オリエンテーション ・学習の進め方 ・学習の約束事	用具の準備・あいさつ 準備運動の跳び箱セットメニュー（①スーパーマン跳び②連結跳び箱渡り③ステージへの跳び上がり下り④高さのあるシンクロ前転）						
35	・場作り ・準備運動の仕方 ・振り返りの仕方	めあての確認 （1）基本的な切り返し系の技で、上手に跳び越すためのポイントを見つける活動をする。さらなる発展技にも挑戦する。 （2）基本的な回転系の技で、上手に回転するためのポイントを見つける活動をする。さらなる発展技にも挑戦する。						発表会
45		後片付け・学習の振り返り・挨拶						

5 指導に役立つ4年生の評価計画

時間	学 習 過 程	学習活動における具体的評価規準		
		A：十分満足と判断できる状況		B：概ね満足できる状況
		関心・意欲・態度	思考・判断	技 能
1	オリエンテーション ① 学習の見通しをもつ ② 学習の約束事を確認する ③ 場作りの仕方を覚える ④ 準備運動の仕方を覚える ⑤ 振り返りの仕方を覚える	・跳び箱運動に進んで取り組もうとする。 A：常に〔行動観察〕		
2	① 挨拶・準備 ② 準備運動 ③ めあての確認 ④ 開脚跳びのポイント学習 ⑤ 練習 ⑥ 振り返り	・器械・器具の準備や後片付けを友達と一緒にしようとする。 A：常に〔行動観察〕	・開脚跳びのポイントについて考えている。 A：適切に [発言・ノート]	
3	①～③は同じ ④ 開脚跳びのポイントをもとに、友達と励まし合って運動する ⑤～⑥は同じ	・きまりを守り、友達と励まし合いながら運動しようとする。 A：常に〔行動観察〕	・自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んで、課題を解決しようとしている。 A：適切に [発言・ノート]	
4	①～③は同じ ④ 大きな開脚跳びやかかえ込み跳びにつながるポイント学習 ⑤～⑥は同じ		・発展技につながる動きのポイントを考えている A：適切に [発言・ノート]	・開脚跳びができる。 A：スムーズに [行動観察]
5	①～③は同じ ④ 台上前転のポイント学習 ⑤～⑥は同じ	・器械・器具の準備や後片付けを友達と一緒にしようとする。 A：常に〔行動観察〕	・台上前転のポイントについて考えている。 A：適切に [発言・ノート]	
6	①～③は同じ ④ 台上前転のポイントをもとに、友達と励まし合って運動する ⑤～⑥は同じ	・きまりを守り、友達と励まし合いながら運動しようとする。 A：常に〔行動観察〕	・自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んで、課題を解決しようとしている。 A：適切に [発言・ノート]	
7 (本時)	①～③は同じ ④ 大きな台上前転につながるポイント学習 ⑤～⑥は同じ		・発展技につながる動きのポイントを考えている。 A：適切に [発言・ノート]	
8	①～③は同じ ④ 発表会をする ⑤ グループ練習をしたり、もう少し上手になりたい技に挑戦したりする ⑥ 振り返り	・場や器械・器具の安全に気を配ったり、試技の開始前の安全を確かめたりしようとする。 A：常に〔行動観察〕		・開脚跳び・台上前転ができる。 ・発展技に取り組むことができる。 A：スムーズに [行動観察]
	努力を要する状況に対する支援の手立て	・できるようになっていることを励ましたり、賞賛したりしながら学習に取り組ませる。	・技のポイントを焦点化し、見つけられるよう助言する。 ・自分の課題や練習方法・場所などを一緒に考えていく。	・スモールステップでできたことを誉めながら自信を持てるようにする。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

・発展技につながる動きのポイントを考えようとする。〔思考・判断〕

(2) 展開（7時間目／8時間中）

段階	学習活動	時間	指導・支援上の留意点 (○) 研究に関わる手立て (◎) 評価規準 (☆) 評価方法 (*)	用具 資料
導入	1 整列・挨拶 2 跳び箱の準備 3 セットメニュー [場1] ・連結跳び箱渡り ・スーパーマン前転跳び ・高さのあるシンク ロ前転 ・ステージへの跳び上 がり下り	10	○事前に健康観察・服装を確認しておく。 ○安全に気をつけながら、手際よく準備をさせる。 ◎セットメニューを行うことで、楽しみながら跳び箱運動につな がる基本的な動きを身につけることができるようにしていく。 ○連結跳び箱渡りで、体重移動や腕支持感覚を養う。 ○スーパーマン前転跳びで、両足踏み切りと前への体の投げだ し・回転感覚を養う。 ○高さのある前転を行うことで、前単元の学習を想起しながら、 台上前転へとつなげられるようにする。 ○ステージへの跳び上がりでは、腰を高く上げること・手や足の 位置などを意識させ、下り際には、着地の仕方を意識させる。	跳び箱 踏み切り 板 マット セーフテ イマット CD クッショ ン
展開	4 学習内容の確認 着地1・2・3がで きるためのポイント を見つけよう。 5 ポイントタイム [場2] 6 練習タイム 7 挑戦タイム	27	○本時の学習を確認する。 ○発展技の学習であることを児童に伝えながら、意欲を持って運 動できるようにする。 ◎着地が安定した台上前転のポイントをグループごとに見つけ る。 ○集合して、みんなで確認する。 ・着手 しっかり 強く ・体 腰を上げる ・頭 後頭部・肩・背中の中につく ・足 膝を曲げる ○一連の流れの中で、課題が解決できることを確認する。 ☆着地が安定した台上前転のポイントを見つけてようとしている。 *観察 ○みんなで確認したポイントをもとに、グループでやってみる。 ◎グループで、ポイントを確認したり、励まし合ったりすることで、 みんなで上手になる意識を持ちながら運動できるようにする。 ○場を選んで、回転系の技に挑戦する。	学習カー ド(これ見 てカード) 調整板 ゴムひも クッショ ン
終末	8 学習のまとめ 9 挨拶・後片付け	8	○友達とのかかわりや自分の課題・感想などを書き、自己評価と する。 ☆着地が安定した台上前転のポイントを見つけたことができた か。 *発言・ノート ○速やかに片付けができるようにする。	ノート 筆記用具

(3) 場の設定

セットメニュー [場1] 練習タイム [場2]

